

# いろいろな学びの場づくりアンケート結果報告

ダイジェスト版

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

令和5年10月  
鎌倉市教育委員会 多様な学びの場づくり担当

## ■調査概要

不登校児童生徒支援に関するアンケート調査を小3～中3児童生徒および小1～中3保護者を対象に令和5年6～8月に実施し、保護者954名、児童生徒962名の回答を得ることができました。いただいたご意見を踏まえながら、子どもたちへの支援の充実に向けてまいります。

## ■調査結果まとめ

休みがちの子は、登校しても「教室にいるのがつらい」と感じている割合が高い

保護者も子どもも約5%が「相談したいが相談できる人がいない」と感じている

児童生徒の約9割が「自分の家」を「安心して学習できる場所」として選んでおり、「学校の自分のクラス」を選んだ割合は約6割にとどまっている

「休みがち」または「ほぼ欠席」の児童生徒とその保護者はひだまりの利用について高い関心を抱いている

かまくらULTLAプログラムの魅力・有効性をいかに発信していくかが今後の課題

教室に入りづらい状況にある保護者・児童生徒の校内フリースペースへのニーズは非常に高い

教室に入りづらい状況にある保護者・児童生徒の「特例校<sup>\*</sup>」への関心は高く、「自分のペースで学べる」ことに期待を寄せている

\*文部科学省は8月31日に不登校特例校の名称を「学びの多様化学校」に変更しました



## 「多様な学びの場づくりについて」の自由記述回答例

### 1 子どもたちのニーズに合ったサポート

「子どもの気持ちをありのままに受け止めてくれる大人がいてくれることが、子どもからすると安心感、大人への信頼へ繋がります。」「学校での生活に馴染めない子どもも、学校に行きたい、やりたいことが見つかるような、教科書による学習だけではない、幅広い学びが得られるような活動の場になることを望みます。」「今は元気に通えている子ども、突然通えなくなることもあるかもしれない、そんな時にも、みんなが安心して自分らしく過ごせる場所はとても重要だと思います。」

### 2 多様な学びの場の充実

「学校に馴染めない子供たちは、色々なタイプの子供がいると思うので、馴染めなければここしかないではなく、選択肢がたくさんあると可能性が広がると思います」「子どもたち誰ひとり教育の機会を失うことなく、また少しでも多くの楽しい時間が過ごせる場を望みます。」「新しく作られる居場所が「できない子が行く場所」ではなく、「自分に合わせて選んで行く場所」になると嬉しいと思います。」「子どもたちを変えるのではなく、環境づくりをしっかりとっていただきたいと思っています。」

### 3 学校全体の改善

「教室に入れぬ子だけに配慮をするのではなく、無駄なストレスを抱えながら我慢しながら学んでいる子どもへの配慮をもっとして欲しいです。」「公立小中高等学校において、子どもたちが通いたくなるような、多様性を受け入れる環境が欲しい。不登校になってからではなく、ならない様な支援をして欲しい。」「学校以外での学びの場があることで助かる子どもがいるのは良いことだが、最終的にはこの場がなくても、学校がみんなにとって心地よく、お互いを尊重し合える場になるようにしていけることも考えていきたい。」

これらのご意見はほんの一部です。ぜひQRコードから「アンケート結果報告(通常版)」をご覧ください！

